

修士論文の和文要旨

研究科・専攻	大学院情報システム学研究科 社会知能情報学専攻博士前期課程		
氏 名	柳澤 剣	学籍番号	0951026
論文題目	地域知の蓄積を目的とした Web-GIS 構築に関する研究		
要 旨			
<p>近年、地域に内在する「地域知」の蓄積、整理、活用、公開する制度改革、技術開発、以上を運営していく体制の整備が必要であるとされている。本研究は、地域住民の生活の中のいたるところに存在する地域知に着目し、市町村単位程度の地域における効率的な地域知の蓄積に特化した情報共有型 GIS の構築を行うことを目的とした。具体的には、まず地域知を地域安全情報として利用者同士が共有することができるシステムの設計・構築を行う。さらに、大人と子供の地域安全情報に対する捉え方の相違に着目し、情報共有型 GIS を地域コミュニティと学校教育という 2 つの対象事例に分けて運用し、利用者による評価を踏まえたうえでシステムの改善策を提案した。本研究の結論は、以下の 4 点に要約することができる。</p> <p>(1) 地域知の蓄積に最適な情報システムとして、Web-GIS・Wiki・SNS の 3 つの Web アプリケーションを統合した情報共有型 GIS を構築した。時間的・空間的・継続的運用に関する制約を緩和する設計により、対象事例に合わせてシステムを構成することを可能にした。</p> <p>(2) 地域コミュニティにおける運用事例として、調布市と三鷹市の市役所職員・教育委員会職員からのヒアリング調査のもとシステム構成を行い、地域住民を対象者にした情報共有型 GIS の運用を行った。結果、情報投稿に関してはユーザの住む場所からほど近い場所に投稿する様子が見られ、既存の地図サービスと比較して操作性のしやすさが示された。</p> <p>(3) 学校教育における運用事例として、八王子市立中山中学校のパソコンクラブの生徒を対象者にした情報共有型 GIS の運用を行った。結果、参加者は情報共有型 GIS の操作性について困難な点を持たず、多様なシステム構成による利用範囲の広がりが示された。</p> <p>(4) 運用にあたり情報共有型 GIS のシステム的な側面からの改善策として、操作画面をユーザの趣向や習熟度に合わせて設定可能にすること、投稿情報の鮮度と表示形態を整理可能にすること、Web-GIS に掲載する情報を自動化することの 3 点があげられた。さらに地域コミュニティにおける運用については、応用範囲を広げた今後の運用方策を提案した。</p>			